



み え じ ご う ど

美江寺宿～河渡宿

約 4.7 km

歩き旅

中山道ぎふ17宿とは？

江戸時代に整備された五街道の一つである中山道は、江戸と京都を結ぶ重要な街道で、全長135里32丁(約534km)に69の宿場が置かれました。そのうちの17宿、126.5kmが岐阜県のみを東西に横断しており、今も往時の面影を色濃く残しています。その土地の歴史や文化、隠れた魅力の発見を楽しむ街道観光は岐阜県の誇るべき観光資源であるとして、平成25年2月に「岐阜の宝もの」に認定されました。

Topics

長良川の鵜飼

鵜飼の歴史は古く日本書紀、古事記にも記述があるとおり、1300年以上の歴史があります。岐阜の観光名物のひとつ、長良川の鵜飼は毎年5月11日から10月15日まで行われます。かがり火の中、鵜匠の巧みなさばぎで鵜が鮎を獲る姿は、一見の価値あり。長良川鵜飼の中でも宮内庁の御料場で行われる「御料鵜飼」で獲れた鮎は、皇居に献上され、伊勢神宮、明治神宮にも奉納されます。



美江寺宿

寛永14年(1637)に開設された美江寺宿は、最初の本陣、旅籠、茶屋もなく、通行人の増加に伴い、寛文9年(1669)、加納藩により本陣が建てられました。その後、宝暦3年(1753)になって旅籠19軒、茶屋2軒の記述が残っています。現在もうだつのある家が複数残り、周辺に寺や神社も多い落ち着いた宿場町です。

馬頭観世音菩薩堂

天保13年(1842)、河渡宿の荷駄役らが寄進し、家内安全、五穀豊穡を祈願し、愛染明王を祀った馬頭観音堂。この馬頭観音から長良川に向かった直線上の堤防道路に小さな祠があり、その先に河渡の渡しがあったそうですが、今は何も残っていません。

鏡島湊跡

豊臣秀吉の時代から栄えていた長良川の船運湊。天正20年(1592)、岐阜城主・織田秀信は鏡島に新町をつくり、この湊以外には陸揚げさせないとし、岐阜城下町の外湊として支配しました。関ヶ原の合戦後は加納藩が管理し、明治時代の後半まで使われていたそうです。

造り酒屋「布屋」

元禄9年(1696)、加納藩の後ろ盾により加納の酒屋から酒株を分与された文左衛門が創業。明治24年(1891)の濃尾地震で宿内で唯一倒壊を免れ、現在も当時の風情を残しています。

河渡宿

家数64軒、本陣1軒、脇本陣なし、旅籠24軒、人口272人と小規模な宿。長良川の渡しのための宿場町で、天候の悪い時には旅人が長逗留して賑わったそうです。河渡宿を紹介する歌川広重・渓斎英泉の『木曾海道六拾九次の内・河渡』には長良川の鵜飼が描かれています。

